

氏名	平山 広孝
学位の種類	博士（情報工学）
学位記番号	博甲第1号
学位授与年月日	令和7年3月19日
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当
論文題目	長崎市における歴史的風致維持向上計画の重点区域の市民および観光客の意識分析に関する研究
論文審査委員	主査 教授 吉村 元秀 副査 教授 片山 徹也 副査 教授 平岡 透 副査 教授 大塚 一徳

長崎市における歴史的風致維持向上計画の重点区域の市民および観光客の意識分析に関する研究

長崎県立大学大学院 地域創生研究科 地域創生学専攻

平山 広孝

1. はじめに

平成20年（2008）に「歴史まちづくり法」が施行された。これは、市町村が策定する歴史的風致維持向上計画を国が認定し、取組みを支援するものである。自治体は重点区域設定することで、区域内の事業に国からの支援を得ることができる。

本研究では、長崎市歴史的風致維持向上計画における東山手・南山手重点区域（図1参照）を取り上げる。重点区域は市域の一部に限定されており、自治体の財源を集中的に投資することに対する疑義もある。歴史的資源は市民共有の財産であり、全市民がその価値を理解し、活用していくことが望まれている。本研究では、重点区域内の住民が暮らしやすく、重点区域外の市民や観光客が重点区域で非日常を楽しむことができるよう、市民や観光客の意識を分析することでその実態や差異を明らかにし、まちづくりに寄与させることを目的とする。



図1 東山手・南山手重点区域の景観

2. 重点区域内外の意識の差異の分析

アンケート調査は長崎市が令和2年（2020）に郵送にて行った。重点区域内の住民からは411件の回答、重点区域外の市民からは566件の回答を得た。外出頻度、地域資源に対する評価、重点区域のイメージ、まちづくりへの協力意向の質問を行った。アンケート調査で得られたデータを重点区域の内外で適合度検定により分析した。結果は以下のとおりである。

- ・重点区域外の市民に重点区域の雰囲気、景観、眺望、利便性について PR を行うことで、重点区域への移住や定住に効果がある可能性がある。
- ・重点区域の住民は地域貢献への意識が高いため、重点区域の住民が協力し、歴史的な観点から重点区域の住民自身が満足するお洒落な店舗や魅力的な店舗を開発する必要がある。

3. 重点区域内外の年代別の意識の差異の分析

前章の調査を基に、重点区域内外の市民の意識の差異について、年代別に適合度分析を行った。結果は以下のとおりである。

- ・10代から40代は重点区域内外で意識の差異が大きく、50代以上は重点区域内外で意識の差異が小さい。
- ・10代から40代において、重点区域内の住民の方が重点区域外の市民よりもお洒落な店舗や魅力的な店舗が少ないと感じている。

4. 重点区域内外別の年代別の意識の差異の分析

前章の調査を基に、重点区域内外のそれぞれの市民の意識の差異について、年代別に適合度分析を行った。結果は以下のとおりである。

- ・年代によって市内への買い物やレジャーなどの外出頻度が大きく異なっていた。
- ・重点区域外の市民よりも重点区域内の住民の方が年代間の意識の差異が大きい。
- ・10代・20代の意識をくみ取り、40代以上の意識とすり合わせながら、歴史まちづくりの施策を立案させることが重要である。

5. 重点地区内の団体の情報の取り扱いに関する分析

DXまちづくりの観点から、重点区域内で活動するまちづくり団体について、まちづくり活動に関する情報の取り扱いの現状について調査を行った。令和6年（2024）に、直接配布またはウェブ形式でアンケート調査を実施し、31団体からの回答を得た。情報の入手、発信、共有について情報の種類や方法について質問した。結果は以下のとおりである。

- ・「地域の活動や資源に関する情報」に対する関心が非常に高い。
- ・入手、発信、共有の全てにおいて「地域内の会議や勉強会等」や「地域内の関係者との交流（会議等以外）」が極めて重要な役割を持っている。
- ・「地域外の会議や勉強会等」や「地域外の関係者との交流（会議等以外）」に対する強いニーズがある。

6. 長崎市における観光客の訪問地と満足度の関係分析

長崎市が令和2年（2020）に首都圏、京阪神、九州からの旅行者を対象に、訪問地と旅行満足度に関するアンケート調査を行い、1,530人から回答を得た。内訳は、男性と女性がそれぞれ765人、一都三県、京阪神、九州がそれぞれ510人であった。旅行者の訪問地と満足度について質問し、訪問地の選択肢は市内22施設で、うち重点区域のオランダ坂、東山手洋風住宅群、長崎孔子廟・中国歴代博物館、グラバー園、どんどん坂、大浦天主堂、鍋冠山が含まれている。アンケートを2標本t検定によって分析した。結果は以下のとおりである。

- ・寺や現代的な施設以外を訪問した旅行者は、訪問しなかった場合よりも満足度が高い。
- ・重点区域内にある観光施設は7施設のうち6施設が、旅行者の満足度に影響を与えている。

7. まとめ

長崎市で重点区域内外の市民に意識の差異が出たことは、平成以降の洋館保存や景観まちづくり取組みが影響していると考えられる。認定都市の多くは以前から歴史的建造物の保存や景観形成に取り組んできた自治体が多い。本研究で差異が出た質問項目を活用して同様の調査を行うことで、他都市でも応用することができる。年代間の意識の差異については、重点区域の内外に限らず10・20代と40代以上で大きく差異が見られたことから、若年層との意識の擦り合わせが重要である。情報の取り扱いについては、会議や交流の場の重要性が浮き彫りとなったほか、地域外との交流に対するニーズも明らかとなった。観光客の来訪地と満足度の関係については、重点区域内の観光施設が旅行の満足度に寄与しており、重点区域の意義について示唆的であった。本研究で得られた知見を実際のまちづくりに生かしていきたい。